

学芸員に聞いてみた「○○をカードにした理由」

相馬 一行

当館では、来館されたお客様が少しでも展示を楽しくご覧いただけるよう、館内を巡りながら答えを探すクイズを行っており、クイズに挑戦された方に「博物館カード」を差し上げています。

博物館カードは、動物・植物・地質の3分野で埼玉県の自然に関するものについて作成しており、現在までに38種類のカードを作成しました。全てのカードに「どうしてこれをカードにしたのか」選んだ理由があるのですが、今回は3つのカードの理由を担当学芸員に聞いてみました。

「ミドリシジミのカード」…埼玉を代表する昆虫で、かつ見栄えの良い種類ということでミドリシジミを選びました。ミドリシジミはシンボルとして「埼玉県の蝶」に指定されており、埼玉県内の大規模なハンノキ林に見られます。幼虫はハンノキの葉を食べ、成虫はハンノキ林を飛び交い、一生ハンノキに依存した生活を送ります。オスは美しい金緑色の翅を持ち、対してメスは茶色の翅に、赤や青の模様が4パターンみられる美しいチョウです。翅を開いても4cmくらいしかありませんが、その美しさは他の昆虫にはない魅力があります。

「岩畳のユキヤナギのカード」…ユキヤナギは庭にも植えられる身近な植物ですが、実はその自生地は洪水の影響を受ける川沿いの岩場にに限られます。国内では太平洋側に点々と分布しており、博物館の目の前に広がる長瀬「岩畳」は、日本最大

の群生地です！夏、激しい洪水に襲われても、ユキヤナギは岩の割れ目にしっかりと根を張り、しなやかな枝で流れを受け流します。水がひくと、傷ついた枝からいち早く葉を出します。このカードをきっかけに、多くの人にユキヤナギの本来の姿を知り、春の岩畳に咲き誇る姿を見にきていただければと思っています。

「閃亜鉛鉱のカード」…昨年度のカード「黄鉄鉱」と入れ替えだったので、おなじ金属鉱物の中から「埼玉県で産出する」「写真うつりがよい」鉱物を選びました。ほかにも「自然金」「方鉛鉱」「車骨鉱」などの候補はありましたが、閃亜鉛鉱のダイヤモンドに匹敵する強いきらめきと、繰り返し双晶が生み出す規則正しい条線がカッコイイ！…しかし標本の美しさが、カードの写真では表現しきれていないせいか、カードを手渡したときのお客様の反応はまいち。ぜひ、秩父鉱山コーナーにある実物の閃亜鉛鉱を見て、その美しさにときめいて欲しいと思っています。

このように、担当学芸員が何をカードにするのか、毎回悩みながら作成しています。もし、博物館カードを手にする機会がありましたら、「なぜこれをカードにしたのだろうか？」とだけいただけたら大変嬉しいです。

(そうま かずゆき・主任)



ミドリシジミのカード



ユキヤナギのカード



閃亜鉛鉱のカード